

平成 29 年 12 月 吉日

各 位

OATアグリオ株式会社

「オンコル粒剤 5」適用拡大のご案内

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、かねてよりご協力を賜りました殺虫剤「オンコル粒剤 5」が平成 29 年 12 月 20 日付けにて適用拡大登録となりましたので、下記のとおりご案内申し上げます。

今後とも、皆様のご指導ご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

敬具

記

商品名 : オンコル粒剤 5 (第 1 6 5 7 5 号)
有効成分・% : ベンフラカルブ 5.0%
登録年月日 : 平成 29 年 12 月 20 日 (登録拡大)

<1>適用内容の変更 :

- ・ 「さとうきび」の「コガネムシ類幼虫」の使用時期「生育期」を「培土時」に変更。
- ・ 「さとうきび」の「メイチュウ類」の使用時期「生育期（分けつ期まで）」を「培土時」に変更。
- ・ 「さとうきび」に「カンシャコバネナガカメムシ」（収穫 100 日前まで、散布）を追加。
- ・ 「さとうきび」の「ベンフラカルブを含む農薬の総使用回数」を「1 回」から「3 回以内（植付時の土壌混和は 1 回以内、培土時の土壌混和及び株元散布は合計 1 回以内、散布は 1 回以内）」に変更。

<2>注意事項等の変更

「使用上の注意事項」から以下を削除

【削除】

本剤を、は種時に10a 当り6kg 全面土壌混和で使用する場合、土壌深くまで混和すると効果が劣るので、レーキ等により軽く混和処理すること。

【変更後の適用表】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ベンフラカルブを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	イネミスヅウムシ イネトノオイムシ イネハモグリバエ イネハモグリバエ	育苗箱 (30×60×3 cm 使用土壌約 5L) 1箱当り 30～60g	移植前 3 日～ 移植当日	1 回	育苗箱の 上から均一に 散布する。	1 回
	ツマグロヨコバイ ヒメトビウカ セジロウカ	育苗箱 (30×60×3 cm 使用土壌約 5L) 1箱当り 50～80g				
	イネシカレセンチュウ	育苗箱 (30×60×3 cm 使用土壌約 5L) 1箱当り 60g				
ピーマン とうがらし類	ミケイロアザミマ	0.5g/株	育苗期後半 又は定植時	1 回	株元散布	1 回
ひろしまな	アオムシ モモアブラムシ	1g/株	育苗期後半		株元散布	
メキャベツ 非結球メキャベツ	アブラムシ類		定植時		株元散布	
らっかせい	コガネムシ類幼虫	9kg/10a	は種時		全面土壌混和	
さといも		6～9kg/10a	生育期 但し、 収穫60日前まで 植付時		株元土壌混和 植溝土壌混和	
さとうきび	コガネムシ類幼虫 ハリガネムシ類 メイチユ類	6～9kg/10a	植付時		1 回	
	コガネムシ類幼虫	9kg/10a	培土時	1 回	株元散布又は 株元土壌混和	
	メイチユ類	4～6kg/10a				
	カンジャコハネカガムシ	6kg/10a	収穫100日前まで	1 回	散布	
モロヘイヤ	アザミマ類	1g/株	定植時	1 回	植穴土壌混和	1 回
花き類・ 観葉植物		6kg/10a	生育期	3 回以内	株元散布	4 回以内
きく	ミケイロアザミマ	6～9kg/10a	定植時	1 回	植溝土壌混和 又は株元散布	
	ミカンキイロアザミマ	9kg/10a	生育期	3 回以内	株元散布	
つつじ類	コガネムシ類幼虫		定植時	1 回	全面土壌混和 又は 株元土壌混和	
ストック	コガネ				0.5g/株	
たばこ	アブラムシ類	6kg/10a	定植時	1 回	作条土壌混和	1 回
	アザミマ類	3～6kg/10a				

【変更後の使用上の注意事項】

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使い切ること。
- (2) 稲の育苗箱に使用する場合
 - ① 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植すること。
 - ② 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには葉害を生じるおそれがあるので注意すること。
 - ③ 稲苗の葉が濡れている場合葉害が生じやすいので、葉に付着している露を払い落としてから薬剤を散布し、軽く散水すること。
 - ④ 誤って過剰に使用すると葉先枯れ等の葉害を生じることもあるので、所定の使用量、使用方法を厳守すること。
 - ⑤ 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟堆肥多用田の場合は使用をさけること。
 - ⑥ 本田の整地が不均整な場合は葉害を生じやすいので、代かきは丁寧に行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。移植後は直ちに湛水し、極端な浅水、深水はさけること。また、深植にならないように注意すること。
 - ⑦ 本田への移植後低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合は使用をさけること。また、移植後極端な高温が続くと予想される場合も使用をさけること。
- (3) 畑作に使用する場合
本剤をピーマン、たばこに使用する場合
 - イ. 過剰に使用すると葉縁が黄化するなど葉害を生じるおそれがあるので、使用量および使用回数を厳守すること。
 - ロ. 育苗期に使用する場合には、育苗期後半（定植7日前から定植時）に使用し、前半の使用はさけること。
 - ハ. 軟弱徒長苗では葉害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
 - ニ. 高温乾燥期の使用は葉害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
- (4) ミツバチに対して影響があるので、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
- (5) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (6) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (7) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。